

根堀台

第25号



由利中学校 学校便り
平成三十年十一月二十一日(水)

発行者 校長 佐々木克也

由利中同窓会 東京支部設立 祝50年記念総会



十七日(日)には、東京の日暮里で由利中同窓会東京支部総会が開かれました。東京支部設立五十年という記念すべき総会で、由利本荘市長○○○様もご来賓という事で参列されました。本地区の市議会議員の○○○様、○○○様、由利総合支所長

の○○○様も参列されております。

由利中同窓会は、名称に由利中が入っています。が、実際には由利町出身の方々が都市部に出ていった人達の組織が、東京支部になります。由利中同窓会の事務局は、由利中にあります。○○○先生と○○○先生が担当しています。由利中学校の校長が名誉会長になる事が会則で決められております。他の地域では、矢島では在京矢島会などと呼ばれて学校との関わりがなく、各支所の振興課のようなところで事務局が置かれるのが普通です。で、本地域

は、ある意味特殊です。ホテルグランウッドを会場に行われましたが、周年記念の年でもあり、例年の倍の二百十名余りの参加者で、会場は大盛況でした。

現在由利中同窓会の会長は、山本の○○○さんになっていきます。東京支部懇親会の開催にあたっては、何度も役員会を行っています。同様に、東京支部会長の○○○さん(奉行免出身)を中心に準備を進めていきました。

設立当初から五十回ほど毎年参加されている方も多く、最初の頃は、ビール一缶でおつまみを持ち寄っての懇親会だったと言います。集団就職列車で上野に降り立ち、それぞれの就職場所に散らばっても年一度の由利中同窓会懇親会は、本当に楽しみです。それは現在も同じ気持ちであるとおっしゃる方もおりました。

テーブルは、同世代のグループに分かれておりましたので、抱き合ったり

涙する姿もあり、由利というふるさとの絆の強さを強く感じました。

「今年の由利中学校の様子」という事で、○○○先生が作ったDVDが上映されました。全校生徒が運動会で踊った由利町音頭がスクリーンに映し出されると、それまで騒然としていた会場は静まりかえり、見入っております。最後に、由利中学校校歌を全員で合唱しましたが、肩を組み歌っている人たちもおりました。

遠く離れて暮らされている方々ですが、ふるさと由利を想い、遠くからでも支えて下さっている事を強く感じました。十二月十一日には、本校二年生が修学旅行で、東京支部の方々と交流会がもたれます。その交流を通して、由利中同窓会の意義などを感じ取ってきてもらいたいと思います。

同行された役員の販売担当の皆様におかれましては本当に疲れ様でした。

由利小まつり 三年合唱披露

十日(土)は由利小まつりがありました。小中連携の一端として、小中相互の学校祭で交流をしております。今年も、三年生全員が合唱を披露しました。由利中祭から大分時間が経っていましたので、数日前から、放課後等で練習を再開して、校内に三年生の歌声が響いていました。当日は、出し物としては、トップバッタ



ンスが披露されましたが、アップテンポでキレキレのダンスは、会場から自然と手拍子がでて喝采の拍手をいただきました。三年生の皆さんご苦労様でした



し、合唱と学校説明の後に「ユリコレ」で踊った。〇〇〇組のダ

学校保健・給食委員会が開かれました

十一月六日(火)善隣

館において、由利地域学校保健・給食委員会が行われました。学校保健委員会とは、「校長の諮問機関としてスタートし、協議事項は学校保健計画の立案と実施に関することを中心に、児童生徒の健康の保持増進に関係のあるすべての分野の代表によって組織され、決定事項から実行するために行います。学校医、学校歯科医、学校薬剤師に助言・指導をいただくため、ゆり保育園・由利小・中合同で行っています。合わせて、給食の状況についても報告・協議を行い、由利地域この子どもたちの健康と給食について協議しました。その中で、歯の健康が特に問題となりました。本校三年生の虫歯の未処置の割合は際立っているとの事です。中学校を卒業すると医療費が自己負担になります。今のうちに処

校長の独り言

今は一緒に住んでいる孫が、宮城県に住んでいるときの事です。孫が、東北大病院に緊急搬送されたという連絡が入りました。熱があつたので、町医者に診察していたところインフルエンザAと診断されました。タミフルが処方されたそうですが、会計を待っている間に、意識を失い、熱は四十二度軽い痙攣が：：そこから救急車で大病院へ。脳波に異常が見られ、急性インフルエンザ脳症と診断されました。

理された方が良いです。また、インフルエンザについて、早めの予防接種をすすめられました。インフルエンザ治療薬としては、タミフルで異常行動が見られるなどの例がありましたが、新薬のリレンザ等でも同様の症状が見られ、治療薬との因果関係が認められないため、すべてのインフルエンザ治療薬に、重大な副作用として「異常行動(急に走り出す、徘徊する等)があらわれることがあるとされたそうです。そこで、就学以降の小児・未成年者の男性に異常行動が出る場合があることから、保護者の皆様には熱が下がっていない状態では一人にさせないようにという事でした。また、側湾症診断について、学校検診では、見落としが十六%に達しているそうです。モアレ健診という健診を市にお願いしているという事でした。にかほ市ではもうすでに実施しているという事でした。

体温を三十三度まで下げられ、植物人間状態にされ、一週間眠られました。面会もできません。若いお医者さんでしたが、必ず、元気に復帰させますからというものの、心配しかありませんでした。面会が許されたときも、小さな体に人工呼吸器やカテーテル、何本もの電気ケーブルが施されています。つらい十日ほどが過ぎ、意識が戻ったという連絡を受け、仙台まで直行しました。「誰だか分かる？」に「ジイ」と言われたときは、本当にうれし涙が出ました。あれから四年たち、どこも問題なく小学一年生になりました。インフルエンザの時期になると胸が痛くなります。

続く